

地域を創る光陽っ子

福井市光陽中学校

1 取組の概要

(1) 地域や家庭と学校の連携実績

| 項 目 | 回 数 |
|---------------|-----|
| 地域・学校協議会 | 3 回 |
| 中学校区を単位とした協議会 | 2 回 |
| 地域及び家庭への学校公開 | 19回 |

(2) 地域人材の活用(のべ人数)

| | |
|-------------|-------|
| 講師・ゲストティチャー | 41 人 |
| 授業ボランティア | 42 人 |
| 登下校支援ボランティア | 310 人 |
| その他() | |

(3) 特色ある活動

テーマ「豊かな人間関係の中で自尊感情を育む小中連携、地域連携の取組」

<具体的活動内容>

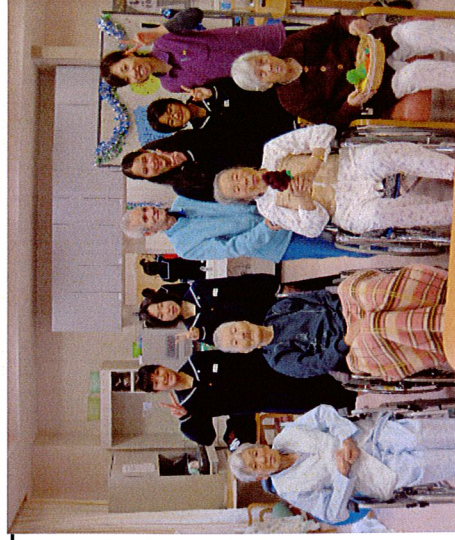
- ・校下3小学生と協力して地域での挨拶運動や地域の方々と清掃ボランティアを行った。
- ・連音楽会に向けて、4小中学校の児童生徒が光陽中学校に一同に集い、保護者の参観の中、合唱発表会を実施した。
- ・養護学校との合同ボランティアや交流会、地域の保育園との交流会を実施した。
- ・2年で3日間の職場体験学習と、事業主を招いて1年生も参加して発表会を実施した。
- ・夏休みに、教員と生徒、保護者で清掃ボランティアを行った。
- ・小学生の部活動体験や授業体験を実施した。
- ・2年生が、3日間地域に出かけて、職場体験学習を行った。このことと前後して、保護者、事業主を招いて発表会を行った。
- ・ボランティア委員会が、老人介護施設「シヨーステイきらら」を訪問し、職員の協力を得て老人との交流をした。
- ・美術部が東安居公民館祭の看板作成を職員と協働して担当した。
- ・吹奏楽部が「光陽生協病院夏祭り」「湊地区夏祭り」「足羽公民館イルミネーションコンサート」に、参加協力をした。
- ・陸上部が小学校に向き、連体指導の手助けをした。

<成果>

- ・地域の方々との小中合同ボランティア活動や親子清掃ボランティアは、自己有用感だけでなく、地域の方々から認められ一員としての自覚を深めることに有効であった。
- ・年少者のお世話をする小学生の体験入学や保育訪問は、自己有用感の育成に有効であった。
- ・連音発表会は、自分たちの良さや所属感を感得することに有効であった。
- ・職場体験学習は、自己を見つめ社会性を育む良い機会となった。
- ・養護学校との交流は、障害のある生徒との交流を通じて思いやりの心を育むのに有効であった。
- ・アンケートで自尊感情の高まりが検証され、落ち着いて学習できる環境は整備された。その結果不登校は減少し、学力調査で県平均を上回るようになった。
- ・小中連携の成果が共有され、このことを推進していく意欲が教員に高まった。

<課題>

- ・自尊感情の高まりによる学校の安定化は、教育の基盤整備であり、達成感や成就感を味わわせることが、今後の大きな目的である。
- ・学校だけの取組には限界がある。成果や取組を保護者や地域に周知し、その理解と協力を得て、保護者と一体になった学校づくり、地域で生徒を育てる学校づくりを進めていく。



<介護施設の奉仕体験>